



瑞中だより

学校だより第1号
令和5年4月10日
瑞穂町立瑞穂中学校
〒190-1211 瑞穂町石畑1961-1
TEL 042-557-0070

第77回入学式 校長式辞

校庭の桜の花は皆さんとの出会いを待ちきれなかったようですが、木々の若葉は新入生のようにすがすがしく光輝いて見えます。本日、このよき日に、瑞穂町副町長 栗原 裕之 様 瑞穂町教育委員会教育長 鳥海 俊身 様をはじめ6名のご来賓の皆様、新入生の保護者の皆様のご臨席を賜り、本校第七十七回入学式を挙げていきますことを感謝し、厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様のハレのご入学、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。新入生の皆さん、先ほどから、入学式に臨む皆さんの態度・姿勢は、礼儀正しく立派です。制服を身に着け、きちんとしたまなざしの凛々しい姿は、若樹のようにとてもさわやかです。いよいよ、今日から、伝統ある瑞穂中学校の生徒です。

学校は、将来皆さんが幸せになるための準備をするところだと思います。中学校入学という大切な節目に、皆さんが、明るく、楽しく、充実した学校生活を過ごせることを願い、論語の一節を紹介します。

子曰、「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」 「知」「好」「樂」

子曰く、「これを知る者は これを好む者に如かず。これを好む者は これを楽しむ者に如かず。」「学ぶことにおいて、その知識を知っているということは、勉強を好きな人間には及ばない。勉強を好きな人間は、勉強を楽しんでいる人間には、及ばない。」という意味です。好きこそものの上手なれと言います。まず物事の上達を図るとするのならば、それを好きになるのが一番近道だということですが、さらにその上は、楽しんでいる状態であるということです。スポーツで例えると分かりやすい。野球やサッカー、バスケット、ルールくらいは「知っている」レベルと、プロ野球やJリーグ、Bリーグなどの試合をよく観戦している「好き」なレベルと、見ているだけでは物足りなくて、実際に選手として試合をする「楽しむ」レベルとで、それらのスポーツがより上手くなるのは、どれでしょうか？ 実際に行動する、やってみて「楽しむ」が、一番上達が早くなるのはあきらかです。実は、学問においても、最強の勉強法は「楽しむ」ことです。我々教職員も授業改善に努め、生徒主体の授業を推進していきます。毎日の予習・復習の習慣化が大切です。勉強が分かるようになれば嬉しいし、さらに楽しくなれば、学力向上、成績アップは間違いありません。瑞穂中では、「わかる喜び・できる実感・学ぶ楽しさ」というキャッチフレーズでまとめています。

グローバル化された世界は、今、持続可能な社会を目指していますが、これからの未来は、ますます変化の激しい厳しい時代となるでしょう。予測困難な時代において、よい変化を起こそうと、自分で課題を設定し、振り返り、責任をもって行動する力が求められます。

この機会に皆さんも、「持続可能な社会」とは どんな社会なのか？「戦争と平和」「人権問題」「多様性」など、答えが一つだけではない課題、正解が見つからない問いについて、改めて考え、思いをめぐらし、問い続けてほしいと思います。中学生らしく好奇心・探究心をもって学んでほしいと思います。

結びに、ご来賓の皆様をはじめ、保護者の皆様、本日、153名の新入生を迎えることができました。中学校では、小学校教育に引き続き子供たちのよりよい成長を目指した教育活動を全教職員が一丸となって進めてまいります。今年度から瑞穂中は、地域運営学校、コミュニティスクールモデル校として新たな一歩を踏み出します。これからも、本校のために、皆様方の変わらぬご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げます、式辞といたします。

令和5年度は全校生徒 427 名でスタートします。

